〈発行所〉
全国港湾労働組合連合会
〒144-0052　東京都大田区蒲田5-10-2
日港福会館1F
電　話：03―3733―2561
FAX：03―3733―2627
発行人：玉田雅也
定価：30円（組合費に含む）

（毎月1回15日発行・平成7年8月18日 第三種郵便物認可）

2014年10月15日　第259号

全国港湾

NATIONAL FEDERATION OF DOCKWORKERS UNIONS OF JAPAN
(ZENKOKU-KOWAN)

ZENKOKU-KOWAN

E-Mail：nfduj@zenkoku-kowan.jp

各単組定期大会開催
全国港湾に結集しよう！

全港湾

全日本港湾労働組合の第八五回定期全国大会を、九月十日、十一日の二日間、宮崎県内にて開催した。全国から傍聴者を含め二七〇名が出席した。また、今年は役員改選期にあたり、松本委員長、真島書記長をはじめとする新執行部を選出した。松本委員長は就任あいさつの中で「全港湾が先頭に立って、産別運動、たたかう労働組合の再建に取り組んでいこう」と呼びかけた。議案については全て可決をした。そして、大会宣言を採択し、松本新委員長の団結がんばろうで締めくくった。また、これまで三期六年間中央執行委員長を務めてきた伊藤委員長は現役を引退し、全港湾の顧問に就任した。

運動方針の基調

運動の基調については「①新自由主義による規制緩和、競争社会に反対し、貧困をなくし、格差社会を是正する。②港湾産業、運輸産業における産別運動を強化するとともに、企業の枠を超えた地域運動、国際運動と連帯し、中小企業労働者と非正規雇用労働者の立場から労働運動の再建をたたかう。③平和憲法の改悪を許さず、反戦・平和、社会保障の充実、人権擁護、脱原発と環境保護をたたかい、働く者のための政治を実現する。④大衆路線にもとづいて職場闘争を強化し、活動家を育成し組織の強化拡大を勝ち取る」とし運動を進める。海コン・トラックについては新たにバスを加え、海コン・トラック・バス労働者のたたかいとして取り組んでいくとした。

二〇一四年度運動方針案では、港湾荷役・関連部門・検数部門を踏まえ専業・現業労働者の地位向上・職域確保・安全問題など多岐に亘る運動方針案が満場一致で確立され、大会宣言案についても採択された。

そして、西川中央執行委員長のガンバロー三唱で組織の団結と結束力を固め第六二回定期大会を締めくくった。

日港労連

日本港湾労働組合連合会は、九月二十四日～二十五日に掛け、第六二回定期大会を東京マリナーズコートに於いて開催した。

大会では来賓として全国港湾・糸谷中央執行委員長、港荷労協・日吉副議長（港運同盟会長代行）をお招きして産別運動への結集と団結の決意について、貴重なご挨拶を頂いた。

検数労連

九月十一日～十二日にかけて、シーパレスリゾート豊橋で『第四十六回　全国検数労連定期大会』が開催され、一三年度運動経過の総括、一四年度運動方針について論議がされた。

また、今大会に来賓で来て下さった全国港湾・玉田書記長、交運共闘・菊池事務局長、全労連・小田川議長をはじめ、激励のメッセージを送っていただいた共闘関係の皆様には紙面を借りて厚く御礼を申し上げさせていただきます。

経過報告では、一三秋越年末闘争、一四春闘から夏季一時金闘争についての報告と、国民的諸課題や雇用と職域の確保についての報告がされ、各地域の意見としては、一時金に対する意見、定年延長に対する取り組みの要望、無検数船対策、AEO制度や放射線測定に対してなど、さまざまな意見・要望が出された。これら意見や要望に対して、中央として検討、または両協会に要請していくとの答弁を行ない、確認された。

一四年度運動方針では、安倍政権の極端な大企業本位の政治で国民の生活は極めて危険な状況に追い込まれようとしている。また、『集団的自衛権』の行使容認やTPP、労働法制の改悪などを行おうとしている。それらの問題に対して、国民的共同も大きく前進しているなか、検数労連としても『一点共闘』として取り組みに参加していく必要がある。

港湾情勢、特に検数をめぐる課題としては、既存業務の減少に歯止めがかかっていない状況の中、検数が果たしている役割を各々がしっかりと認識したうえで、『仕事と収入の確保』運動の重要性を組合の方針として掲げて取り組みを強化する。また、組織拡大については引き続き全国一丸となって取り組んでいく事を最重要課題として、方針を掲げた。

各地域の意見として、一時金要求の細目に対する議論の場の設置、一五春闘の対応、平和問題では、名古屋港での自衛隊の軍事物資輸訓練の報告と商業港における軍事訓練に対して反対の取り組みを進めてもらいたいとの要望も出された。

一四年度運動方針についても、組織拡大・強化に重点を置きながら、とりわけ喫緊の課題である一四冬季一時金の要求骨子とたたかい方、一五春闘の闘争スケジュール等、全体の拍手で確認がされた。

検定労連

検定労連第四十二回定期大会は、九月十日及び十二日、豊橋市シーパレス日港福において、代議員二十一名、役員九名、来賓一名、傍聴を含む参加者総数四十二名の出席のもと開催された。全国港湾からは玉田書記長に来賓として、激励の挨拶を頂いた。

大会は、花井副委員長による開会挨拶および資格審査の後、大会議長として久保田（九州・新日本）・益小原（大阪・海事）両代議員を選出、各大会役員を確認し議事に入り、中央執行委員会提出議案、決算及び予算について審議され、全会一致で採択された。

第二十一期後期労連役員の補充確認が行われ、中央執行委員長に遠藤一幸（横浜・海事）、中央執行副委員長に外池徹雄（京浜・新日本）、書記次長に秋定知（京浜・新日本）、中央執行委員に藤田健太郎（阪神・新日本）、秋谷晴彦（神戸・海事）を選出し、新たな中央執行部体制を確認した。

その後、「全国港湾を中心とした港湾関係労組と連携し、港湾産別運動の更なる発展に寄与するとともに、生活向上に向け、全国の港湾労働者をはじめとした全ての労働者と連帯しともに闘うことを決意する」大会宣言を採択し、外池副委員長の挨拶を以って閉会しました。

全倉運

全倉運は九月十日（水）～十一日（木）にかけて、愛知県豊橋市のシーパレスリゾートで全倉運第六九回定期大会を開催。大会には、各単組の代議員や地連代表など八十二名が参加し、二〇一四年度の活動経過を報告、新年度の運動方針案などを審議、採択した。

全国港湾から玉田雅也書記長が来賓としてご挨拶いただき、全倉運の歴史をたどりながら、「全倉運の運動方針は全国港湾とも一致している」として、一緒になって産別運動を作り上げることを訴えた。新年度の役員選挙では、中央執行委員長に内藤維彦（住友倉庫労組）を再選するなど、新年度執行部の体制を固めた。活発な討論が行われた大会は、新年度に向けた内藤中央執行委員長の団結ガンバローで締めくくった。

大港労組

大港労組第六二回定期大会を、十月三日（金）大阪港湾労働者福祉センターにおいて、執行部二十四名代議員五十八名委任三十五名を含む百十七名出席のもと、議長に竹川代議員（中谷支部）亀井代議員（山九支部）選出し開催された。

全国港湾からは、糸谷中央執行委員長が来賓として、全国港湾に結集する港湾産別運動の力強い闘う決意のご挨拶を頂きました。

大会は、一三年度主要な運動と経過の総括（第一号議案）、一四年度運動方針案（第二号議案）、一三年度決算報告・一三年度特別会計収支決算報告・会計監査報告・一四年度予算案（第三・四号議案）、特別提案（第五号議案）を討議した。また、一四年度役員選出（第六号議案）と大会宣言を確認し予定されていたすべての議案が満場一致で採択された。

シャモ樽

「岩盤のように固まった規制を打ち破るドリルの刃になる」と、各国首脳が集まる会合で宣言した安倍首相。不安定雇用を増やし、サービス残業、長時間労働を野放しにする大改悪が始まっている▼まず、この秋の臨時国会で「生涯派遣」の働かされ方を広げる労働者派遣法改正案が提出された。サービス残業を合法にし、過労死を自己責任にする労働時間ルール改悪（ホワイトカラーエグゼンプション制の導入）は来年の通常国会での法整備に向けて検討中だ。裁判所が解雇無効と判断しても、一定のお金で、労働者を追い出せる解雇規制緩和も虎視眈々と狙っている。いつでも首を切れる派遣労働者を自由に使えるようにする一方で、正社員には成果があがるまで制限のない長時間労働を強い、ものを言う労働組合の中心人物には首切りを強行して職場から追い出す。三つの改悪はセットとみるべきだ。大株主や経営者に優しく、働く者には極めて過酷な未来社会が待ち受けている▼「憲法改悪」をはじめ、軍事国家づくりを進める安倍首相は、企業を縛る労働者保護規制を弱めることで株価を釣り上げ、長期政権を狙っている。安倍首相のよこしまな野望のために、労働者や庶民の暮らしを犠牲にする企みを許してはならない。